

埼玉県議会議長賞

学校法人塩原学園本庄第一中学校 二年 澤田 彩花

明日を夢みてー納税で支え合う社会へー

「突発性側弯症」と診断されたのは去年の夏休み前のことだった。

大きな病院へ行って検査をすると、長期休暇に合わせてすぐに手術を受けるように、と言われた。突然「側弯症」と言われ、冬休み前には手術と言われても私は納税できなかった。手術をしない方法はないかと、インターネットで必死になって調べた。

しかし、私の背骨の状態では手術をしないと体に負担がかかるばかりで、手術しかないことが分かり、絶望的な気持ちになった。それと同時に手術の費用だけでも百二十万円から二百万円と高額であることが分かり、さらに入院費用も必要らしく、家族にも迷惑をかけるのだと思うとますます憂鬱な気持ちになった。せつかくなので、手術の費用と入院費用についても調べてみると、意外なことが分かってきた。

まず、日本は健康保険制度が整っており、医療費は健康保険に加入していれば、費用の三割だけを支払えば良いらしい。それでも入院・手術の費用だけで百六十万円と書いてあった。そこまでして手術をしなくてはいけないのだろうかと思いつつさらに調べてみると、他にも高額な医療を受けた際に使える制度があるとわかった。「高額療養費制度」と言われるものだ。この制度の利用を申請すると限度額適用認定証が発行され、これを窓口に提出すると、支払いが十万円程度に減額されるという。さらに、私は未成年なので自治体の「子ども医療費助成制度」を利用することで、実際には支払いがなくなるとわかった。

素晴らしい制度だが、一体なぜこんなことが可能なのかを調べてみた。

「高額療養費制度」は、社員や自営業者らが負担する健康保険料と税金で賄われているそう。 「子ども医療費助成制度」も各自治体に納めた税金で賄われているという。

私の入院手術費は結果的に四百八十万円だったが、個室に入院していた費用を除いてすべて税金で賄われたことになる。

とても大変な手術で、大きく背中を切ったこともあり、痛みも想像を絶するものだった。しかし回復するにつれ、今まで通りに荷物を持てるようになり、今では書道部でパフォーマンスもできるようになり、エレクトーンのコンクールにも出場できた。

買い物の際に必ず支払う消費税について、何でこんなに支払う必要があるのだろうと思っていた。でも今は、手術費を全て賄ってもらい、快適に過ごせるようになり、感謝の気持ちでいっぱい。私の払った税金が誰かの役にたつのならば、納税は社会貢献と同じではないだろうか。

私も将来、今よりも色々な税金を支払うことになる。その時は正しく納税し、たくさんの人の役に立つように活用してもらえたらうれしい。費用のために医療を諦め、苦しい思いをする人のいない世の中になってほしい。